



2013. 9

一般社団法人 原子力安全推進協会／ヒューマンファクター検討会

“Dr. ジャン・シーのヒューマンファクター研究室”
No. 8 〈 ３ H（初めて・変更・久しぶり） 〉

タイトル：それって３ H？

【事例】

大型の設備改造があった今定検は、初めての作業や工程直前での手順変更が多く発生する定検となりました。一般的な経験則として「３ H（初めて、変更、久しぶり）」作業時にトラブルは多く発生することから、この事業所では労働安全や品質管理面での徹底した注意喚起をすることとしました。

計画段階より入念に３ H作業の洗い出しを行い、それに対する安全対策を検討し、取り除けないリスクに対しては手順書を改訂しヒューマンエラー対策を実施しました。また、作業開始前には管理者が作業担当者に対し、今回の作業が３ H作業に当たることを周知し、普段以上に報連相の徹底、作業者同士の連絡を密にとること、リスクへの感度を高めることを指導しました。

３ Hというワードを所内の共通認識とし、部署間でも「３ H作業だから気を付けよう」という声掛けの文化を作ることで、３ H作業時のトラブル低減に取り組みました。

【ヒューマンファクターの視点から】

多くのトラブルは、初めての作業、当初の計画変更時や久しぶりの作業で発生しています。そのため、３ H作業時のリスク管理はとても重要です。３ H作業をトラブルに結びつけないための対策として、徹底したリスクアセスメントと関係者の相互の注意喚起が有効です。

３ H作業では、リスクがあるという共通認識と共通用語を事業所内で設定しておき、部署内、部署間で注意喚起をしやすい風土を築いておくことが大切です。

３ H（初めて・変更・久しぶり）作業時はトラブルが発生しやすくなります。各自慎重に作業することはもちろんTBMやKY、作業要領書の事前検討会でリスクを洗い出すとともに、部署内、部署間のコミュニケーションを密に図り、互いに注意喚起しましょう。

以上